

§ 5 ローマ字教育実験学級に対する「漢字・かなまじり文による国語学力テスト」

(このテストは、ローマ字教育実験学級における児童の漢字・かなについての国語力を調査し、その実態を知るために実施したものである。)

I 漢字・かなまじり文による国語学力テストは、文部省ローマ字教育実験学級の所属する学校で、実験学級、および実験学級と同一学年の他の学級（以下、対照学級という。）について実施する。

- 1 実験学級と対照学級は同じ日に、同時に、別の教室で実施する。
- 2 実験学級・対照学級とも、それぞれの学級の受持教師が実施する。（ただし、助手を使うことはさしつかえない。）

II テスト実施前の注意

- 1 父兄に対しては、このテストは、決して、その学級や児童の評価を目的とするものでなく、ローマ字教育実験学級、対照学級全体のテストの結果によって、漢字・かなについての国語力の全国的な水準を推定するために行うものであることをよく説明する。
- 2 児童に対しては、この調査が決して、学級の成績と関係のあるものではないことをよく説明し、楽な気持で解答するように注意する。したがって、教師は児童に無用の不安や緊張をおこさせることがないように、指示の与え方や態度などにじゅうぶん注意する。
- 3 教室内の掲示物で、テストの内容に関係のあると思われるもの（たとえば、漢字表や黒板の板書など）は、あらかじめ取り除くなり、かくしておくりする。

III テストの種類と枚数は次のとおりである。

{	1	漢字を書く	}	1	枚	}	計5枚
	2	漢字に読みがなをつける					
{	3	文脈によって読む (1)	}	1	枚		
	4	〃 (2)					

{	5	叙述を完成する	(1)	}	1	枚
	6		//			
7		文を理解して読む	{ もんだい	1	枚	2
			{ しつもん	1	枚	

注意：用紙はどの紙も切り離さずに与える。

IV 実施の日時・時間など。

1 昭和28年5月中旬～5月下旬の1日

2 午前中に $\left\{ \frac{1}{2} \right\}$ (合わせて) 30分

午後 $\left\{ \begin{array}{l} \left\{ \frac{3}{4} \right\} \text{ (合わせて) } \underline{10分}, \left\{ \frac{5}{6} \right\} \text{ (合わせて) } \underline{15分} \\ 7 \left\{ \begin{array}{l} \text{もんだい} \\ \text{しつもん} \end{array} \right\} \text{ (合わせて) } \underline{15分} \end{array} \right\}$ 正味の
総計時間
40分

午前と午後との間には昼食・休憩の時間をはさんでさしつかえない、午後の分は、上記の順序で連続実施する。ただし、各問題用紙ごとに別に配る。たとえば、 $\left\{ \frac{3}{4} \right\}$ の問題用紙をまず配り、それがすんで、集めてから、次に $\left\{ \frac{5}{6} \right\}$ の問題用紙を配る。

3 すべて、用紙は裏向きにして配る。(「始め。」と言うまではあけないようにあらかじめ注意しておく。)

4 名まえのところはあとで書くようにあらかじめ注意する。

5 問題のしかたはそれぞれ用紙にしるしてあるから、よく読んでから始めるように注意する。(しかたは特に説明しない。)

6 「始め。」(いっせいに始めさせる。)

7 〔所定の時間(2を参照)がきたら,〕「やめ。」(ただし、この時間は児童には知らせない。)

8 名まえのところを書かせる。

V テストを終わってから

(省 略)

小学校	
5 年 組	
番号	
なまえ	
女	男

1 つぎの □ のなかにかんじをかきいれなさい。

動物の □ □。

この □ は □ 送 □ へ □ □ しましう。

組の □ □ の □ □。

山田 □ は □ 通 □ □ の □ です。

□ □ い日が □ □ く。

試合に負けて □ □ だ。わたくしは □ □ です。

□ □ □ □。

2 つぎの () のなかによみかたをひらがなでかきいれな

さい。

() 公 園。() 望 遠 鏡。() 借 りる。

() 勢 いよく 飛 ぶ。() 静 かな () 航 海。

() 機 関 士。() 不 必 要。() 旗 取 り () 競 争。

() 覚 える。() 洋 服。() 社 会 科。

石 油。() 緑 色。

小学校	
5 年 組	番号
なまえ	
女	男

3 次の三つの文の「」の中の「ア」「イ」「ウ」「エ」のうちで、いちばんよいと思うものの上に○をつけなさい。

一 きょうは雪が降ったが

(ア) 思ったとおり
(イ) 思いきって
(ウ) 思うぞんぶん
(エ) 思ったより

寒くなかった。

二 ぼくは

(ア) いつも
(イ) また
(ウ) まだ
(エ) もう

一度もそれを
見たことが

(ア) あるでしょう。
(イ) あります。
(ウ) ありました。
(エ) ありません。

三 あまり

(ア) おそろしかった
(イ) かなしかった
(ウ) おかしかった
(エ) さびしかった

(ア) のに
(イ) ので
(ウ) のも
(エ) のは

思わずわらい出した。

4 上の「」の中にあることばの形をかえて、その下の文の意味がよくとおるように、□の中を書き入れなさい。

(例) (よく)

きょうは □ よい 天気だ。

一 (美しい)

うめの花が □ 咲いている。

二 (静かな)

雨が □ 降っている。

三 (明かるい)

東の空が □ なった。

四 (黒い)

石炭は □ 光っているのがよい。
ば黒いほどよい。

小学校	
5 年	組
番号	
なまえ	
女	男

5 次の三つの文の の中に、文の意味がよくとおるように、ことばを自分で考えて書き入れなさい。

一 雪が 降ってきた。見る見るうちに、やねも庭もまっ白になった。夕方までにはどれくらいつもる 。

二 ぼくたちはプラットホームで汽車の のを待っていた。

やがて汽車が と、おおぜいの人而降りて 。

6 次の五つのもんだいの中のことばをならべかえて、どれも意味のよくとおる文にしなさい。

ことばの上の○の中に番号を書さ入れなさい。

(例) ④三羽 ②家には ①ぼくの ⑤います
③にわとりが

一 ○菜の花に ○ちょうちょう ○とまっている ○が

二 ○科学の ○です ○すき ○わたくしは ○本が

三 ○少し ○はいが ○あとには ○炭や ○まきが

○残ります ○もえると

四 ○地球 ○まるい ○は ○といった ○ガリレオは

五 ○多い ○日本は ○国 ○よい ○けしきの

○ところが ○です

小学校	
5 年 組	
番号	
なまえ	
女	男

7

もんだい

次の文の――を引いたところについて、あとにあるしつもん
に答えなさい。

夏の終りに庭のまつの木のかれえだの皮に生みつけられたあぶら
ぜみのたまごがありました。

親ぜみのはらのさきにあるほそくがったくだのさきで、かたい
皮にあなをあけて、ていねいに生みつけておいてくれましたので、
⁽¹⁾寒い冬もぶじにこすことができました。

春がきても、たまごはそのままでした。暑い夏がやってくると、
たまごは、はじめてかえりました。二ミリほどある、白いうじのよ
うなうちゅうが、はいだして、まつのふといみきをつたって、地
面に向かって、すべったりころがったりしておりていきました。

地面におりた虫たちは、やがて、思い思いにやわらかいところを
さがして、地の中にかくれてしまいました。

地の中はどこもまっくらです。せみの子どもたちは、自分の小さ
なまえ足でトンネルをほりながら、さぐりさぐりもぐっていきま
す。そこは木の下ですから、大小の木の根が、からみあい、かさな
りあってはえています。まつの木の根ばかりではなく、あたりの木
の根ものびています。だから、虫たちが、いいかげんにすすんでい
っても、なにかの木の根にいきあたりります。

しかし、虫たちは、においで知るのか、なんで知るのか、手ごろな、皮のうすい、しるの多い木の根をさがしてあるきます。虫は、小さいけれど、親ぜみによくにて、ほそいとがった口をもっています。その口のさを根の中につきさじて、木のしるをすいはじめます。

これは、木からいうとめいわくしごくなことですが、⁽²⁾せみの子からいえば、母親のちぶさにすがったようなもので、とりついたがさいご、⁽³⁾よいにそれからなれません。

虫たちは、どうしてこんなことができるのでしょうか。それは、だれも教えてくれたことはありません。人間のあかちゃん、したのさをじょうずにつかってちちをのむのと同じように、しぜんにそなわったかしこさで、これでじょうずに生きていくのです。

せみの子たちは、はじめにはあさいところにて、ほそい木の根のしるをすっています、大きくなるにつれてだんだん地のそこふかくもぐりこんでいきます。

七年の月日がたったころ、せみの子たちは、れいのふしぎなかしこさで、もう大きくなりきったことを知ります。そこで⁽⁴⁾地表に近づいてきて、皮をぬぐ日をまつのです。

上からつたわってくるあたたかさと、かわきかたとで、いまが夏だということや、よい天気がつづいていることなどを知ります。せみの子は、だいたんに、まっすぐなあなを地表に向けほっていき、あたりのくらくらかけた夕ぐれをみはからって、思いきって土をかきわけて地上にはいだします。

小学校	
5年 組	
番号	
なまえ	
女	男

7

しつもん

次の答の中でいちばんよいと思うものを一つ選んで○をつけなさい。

(1) 「寒い冬もぶじにこすこと」ができたものは何か。

- (ア) まつの木
(イ) かたい皮
(ウ) 親ぜみ
(エ) たまご
(オ) あぶらぜみ

(2) 何が木からいうと「めいわくしごくなこと」か。

- (ア) 虫の木の根をさがしてあるくこと。
(イ) 虫が思い思いにやわらかいところをさがすこと。
(ウ) 虫がほそいとがった口をもっていること。
(エ) 虫が木のしるをすうこと。
(オ) 虫がいいかげんにすすんでいくこと。

(3) せみの子はどこから「はなれない」のか。

(ア) 木の根

(イ) 地の中

(ウ) トンネル

(エ) 母 親

(オ) ちぶさ

(4) せみの子はどうして「地表に近づいて」くるのか。

(ア) 地の中はまっくらで何も見えないから。

(イ) あまりふかくもぐりすぎたから。

(ウ) 大きくなりきったことを知ったから。

(エ) 七年の月日がたったから。

(オ) 木の根にしるがなくなったから。

§ 6 ローマ字教育実験学級の年次報告・調査表

〔I〕 昭和26年度 年次報告

記入上の注意

- 1 担当教官が自分で記入してください。
- 2 書ききれない場合は、適宜に紙をつぎたしてください。
- 3 書き終わったら、学校長が点検し、教育委員会と御連絡のうえ、昭和27年4月20日までに、到着するよう文部省調査普及局国語課長あてにお送りください。

I 教科書にはいる前の指導の反省。(特に教科書にはいつてからの指導の学習効果との関連において。)

- 1 一般的に。
- 2 単語の提出のしかたと教科書との関連をどのようにくふうしたか。
- 3 カード遊びはどのような効果をおさめたか。(教科書にはいつてからの指導も含めて。)
- 4 一目読みのカードはどのような効果をおさめたか。(教科書にはいつてからの指導も含めて。)

II 教科書にはいつてからの入門期の指導上特に注意すべき点はどういう点だと思うか。

- 1 一般的に。
- 2 教科書と話題学習との関連について。
- 3 教科書の進度について、特に新語の提出などと教科書とのくいちがいについて。
- 4 読むことの目的がはっきりしてきたか。
- 5 黙読の習慣がついたか。
- 6 書くことの学習指導をどのようにしたか。
- 7 話すことの学習指導をどのようにしたか。

Ⅲ 能力別学習指導が効果的に行われか。

1 ○ やっていない

○ やった

(1) いつから始めたか。

(2) ○ やらなければならないことになっているから始めたか。

○ 必要を感じてやったか。

(a) どんな必要を感じてやったか。

(b) いつからやったか。

(c) どういうやり方をしたか。

-i- いくつのグループに分けたか。

-ii- どういう基準・根拠によって分けたか。

-iii- 机を分ける等グループ別を形の上に表わしたか。

-iv- ○ グループ別の名称をつけたか。

○ どんな名称をつけたか。

-v- ○ いっせい授業を行ったのはいつか。

○ 随時やったのか。

○ どういうときにやったのか。

-vi- ○ むりがおこらなかったか。

○ いつからむりがおこったか。

(3) 各グループの取扱は特にどういうくふうをしたか。

(a) Aグループについて。

(b) Bグループについて。

(c) Cグループについて。

2. 国語科全体における能力別指導との関係はどうか。

3 他教科の能力別指導との関係はどうか。

Ⅳ ローマ字の技術的な能力の指導についての反省。

1 一般的に。

2 しばしば現れる単語のわかち書きの指導は効果をおさめたか。

- 3 正しく書けるように指導すべき変化形の習得がじゅうぶんであったか。
- 4 大文字・小文字の使い方がわかったか。
- 5 音声分解は効果的に行われたか。

V 国語教育の一環としてのローマ字教育として。

- 1 国語科および他の教科に対してローマ字学習指導の時間の配当がどのようになっているか。
- 2 漢字・かなまじり文の学力との関係はどうか。
(校内の漢字・かなまじり文の学力いっせいテストなど、他の学級との比較における報告などがあったら添付する。)
- 3 その他

VI 昭和26年度ローマ字教育実験学級学習指導の経過。

- 1 授業開始の時間
年 月 日
- 2 教科書にはいった時期
年 月 日
- 3 17時間テストの細目とその実施年月日
- 4 30時間テストの細目とその実施年月日
- 5 40時間の指導を終った時期
- 6 終末テストの細目とその実施年月日

VII 昭和26年度ローマ字教育実験学級指導試案(「入門期におけるローマ字文の学習指導」)の批判

- 1 落ちている項目
- 2 時間配当の欠点
- 3 提出語数の取扱い方
- 4 その他

VIII 環境調査その他

- 1 教育委員会，または，学校本部の名称・所在地
- 2 長の官職名・氏名
- 3 教育委員会等における指導者の官職名・氏名
- 4 学校長氏名
- 5 実験学級名

昭和26年度 年 組 在籍 () 名 {男 () 女 () }

昭和27年度（予定）年 組 在籍（ ）名 {男女 {（ ）

- 6 担当教官氏名
- 7 使用教科書名

式	書	名	発行所	発行年月日
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9
10	10	10	10	10
11	11	11	11	11
12	12	12	12	12
13	13	13	13	13
14	14	14	14	14
15	15	15	15	15
16	16	16	16	16
17	17	17	17	17
18	18	18	18	18
19	19	19	19	19
20	20	20	20	20
21	21	21	21	21
22	22	22	22	22
23	23	23	23	23
24	24	24	24	24
25	25	25	25	25
26	26	26	26	26
27	27	27	27	27
28	28	28	28	28
29	29	29	29	29
30	30	30	30	30
31	31	31	31	31
32	32	32	32	32
33	33	33	33	33
34	34	34	34	34
35	35	35	35	35
36	36	36	36	36
37	37	37	37	37
38	38	38	38	38
39	39	39	39	39
40	40	40	40	40
41	41	41	41	41
42	42	42	42	42
43	43	43	43	43
44	44	44	44	44
45	45	45	45	45
46	46	46	46	46
47	47	47	47	47
48	48	48	48	48
49	49	49	49	49
50	50	50	50	50
51	51	51	51	51
52	52	52	52	52
53	53	53	53	53
54	54	54	54	54
55	55	55	55	55
56	56	56	56	56
57	57	57	57	57
58	58	58	58	58
59	59	59	59	59
60	60	60	60	60
61	61	61	61	61
62	62	62	62	62
63	63	63	63	63
64	64	64	64	64
65	65	65	65	65
66	66	66	66	66
67	67	67	67	67
68	68	68	68	68
69	69	69	69	69
70	70	70	70	70
71	71	71	71	71
72	72	72	72	72
73	73	73	73	73
74	74	74	74	74
75	75	75	75	75
76	76	76	76	76
77	77	77	77	77
78	78	78	78	78
79	79	79	79	79
80	80	80	80	80
81	81	81	81	81
82	82	82	82	82
83	83	83	83	83
84	84	84	84	84
85	85	85	85	85
86	86	86	86	86
87	87	87	87	8

昭和26年度 ()式 () () ()

昭和27年度 () () () ()

- 8 その他、学校における全教官の協力、P.T.A.の援助、家庭における父母兄弟の関心、児童の興味などについての調査資料を適当に添付する。

〔Ⅱ〕 昭和27年度 年次報告

記入上の注意

- 1 担当教員が自分で記入してください。
- 2 書ききれない場合は適宜に紙をつぎたしてください。
- 3 記入に際しては昭和27年度の指導試案に即して書いてください。
- 4 書き終わったら、学校長が点検し、教育委員会と御連絡のうえ、昭和28年4月20日までに到着するよう、文部省調査局国語課長あてにお送りください。

(1) 小学校長署名押印_____

(2) 担当教官氏名_____

(3) 学級 昭和26年度____年____組____名 {男____名
女____名
昭和27年度____年____組____名 {男____名
女____名
昭和28年度____年____組____名 {男____名
女____名

(4) 使用教科書 (つづり方____式)

(教科書名) (発行所) (発行年月日)

昭和26年度_____

昭和27年度_____

昭和28年度_____

(5) 教育委員会 (大学本部) の名称・所在地

都道府県教育委員会_____

市町村教育委員会_____

(6) 教育委員会 (大学) の長の職名・氏名

(7) 教育委員会等の担当指導者の職名・氏名

都道府県教育委員会_____

市町村教育委員会_____

I 昭和27年度ローマ字教育実験学級，学習指導の経過

(1) 授業開始 昭和27年 月 日

(2) (第5学年の) 教科書を使い始めた時 昭和27年 月 日

(3) 第1期テストの実施 昭和27年 月 日

(4) 第2期テストの実施 昭和27年 月 日

- (5) 45時間の指導を終った時 昭和 年 月 日
- (6) 終末テストの実施
第1日 昭和28年 月 日
第2日 昭和28年 月 日
- (7) 45時間の指導終了後、終末テストを実施するまでに時間があつた学級では、その間どのような指導をしたか。(具体的に。)
- (8) テスト問題に対する意見・希望等。
第1期テスト
第2期テスト
終末テスト
- (9) 昭和27年度の指導試案(「やや進んだ段階におけるローマ字の学習指導」)に対する意見。
- (10) (a) 教育委員会の指導, (b) 学校における他の学級の教官の協力, (c) P.T.A. の援助, (d) 家庭における父母兄弟の関心, (e) 児童の興味, (f) その他について。
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)
(f)
- (11) 実験学級の運営についての意見・希望等。

Ⅱ 第2年度の指導について。

- (1) 一般的にいて。
- (2) 特にくふうした点。(その結果。)
- (3) 特に困難を感じた点。
- (4) 特に効果があったと思われる点。
- (5) 能力別指導について。(特に遅進児に対する処置。)

(6) 反省。

Ⅲ 読むことの指導について。

- (1) 一般的にいて。
- (2) 特にくふうした点。(その結果。)
- (3) 特に困難を感じた点。
- (4) 特に効果が上がったと思われる点。
- (5) 他の式のつづり方のローマ字文の指導について。(具体的に。)
- (6) その他。

Ⅳ 書くことの指導について。

- (1) 一般的にいて。
- (2) 特にくふうした点。(その結果。)
- (3) 特に困難を感じた点。
- (4) 特に効果が上がったと思われる点。
- (5) わかち書きについて。
- (6) その他。

Ⅴ 話すことの指導について。

- (1) 一般的にいて。
- (2) なまり音きようせいの矯正について。
- (3) その他。

Ⅵ 聞くことの指導について。

- (1) 一般的にいて。
- (2) 要点をつかむことができるか。
- (3) その他。

〔Ⅲ〕 調査表 ローマ字学習指導の効果について

記入についての注意事項

- 1 各実験学級の担当教官がみずから記入してください。
- 2 この用紙への記入は、第3年度の学習指導を終った直後に記入してください。
- 3 提出は昭和29年3月10日までに、必らず当方へ到着するように発送してください。
- 4 この用紙を受領後、記入する日まで、各担当教官は、記入すべき事項について、観察しつつ指導を進めていただきたい。(ただし、自然のままの状態・現象を観察した結果を記入していただくことが望ましいので、この用紙へ記入すべき事項についての結果を出すために特別の意図をもって、かたよった指導をするなどのことのないように注意していただきたい。したがって、該当する例がない場合には、「なし。」と記入していただきたい。)
- 5 記入に際して、現象・事実・処置などについては、できるだけ具体的に簡潔に、また、児童の氏名、時期なども書き添えていただきたい。
- 6 記入欄に余白がなくなった場合には、適当に他の紙をはりたしてもさしつかえないが、どこから続くのかを、はっきりさせておくようお願いします。

〔I〕 ローマ字の学習指導が教育一般に対して及ぼした効果。

- (1) 全般的に見て。
- (2) 日記・メモ(手紙)などに自発的にローマ字を使っている例があるか。(氏名・場合・時期など具体的に記入してください。以下同じ。)
- (3) 教科書以外に、ローマ字文の読み物を自発的に読んでいる児童があるか。(読み物の名まえを書いてください。)

(4) その他特記すべき事項。

〔Ⅱ〕 ローマ字文の学習指導と他教科の学習指導との関係。

(1) 全般的に見て。

(2) ローマ字文を学習しはじめてから、それまではできの悪かった他教科のうち、よくできるようになったもののある児童がいるか。

(3) 他教科の学習に際して、ローマ字文の教科書（あるいは、課外読み物）で得た知識を活用した例があるか。

(4) 他教科の教科書などを音読・微音読よりも速い速度で黙読をして、内容をつかむ習慣ができたか。（そして、その習慣はローマ字文の学習指導を始めてからついたものと思われるか。）

(5) 理科・社会科などの報告・記録などを書く場合に、やさしいことばを選んで使うようになったり、他の人にわかりやすいような言いまわしをくふうするようになった例があるか。（なお、その例があれば、それはローマ字文の学習が原因であると思われるか、それとも何かほかに原因があると考えらるか。）

(6) 他教科の教科書・参考書などを読む時に、むずかしい漢字・漢語のために、読みや理解が妨げられた例があるか。

もし、それが、ローマ字文で書いてあった場合には、たやすく理解されられると思われるような例があるか。また、たとえローマ字文であっても、やはり理解されにくいと思われるような例があるか。

(7) その他特記すべき事項。

〔Ⅲ〕 ローマ字学習指導が国語教育一般に及ぼした影響。

(1) 全般的に見て。

(2) ローマ字文の学習指導を始めるまでは、何らかの原因で遅進児と思われていたものが、それ以後、普通児と同様に学習が進められるようになった例があるか。

(3) 語意識、文の切れめの意識が確実にになった例があるか。(特にわかち書きに関する質問からみてどうか。)

(4) 書くこと・話すことにおいて、やさしいことば、だれにもわかりやすい、すなおな言いまわしを選び、くふうして使うようになった例があるか。

(5) 国語のもつ法則・性質、複合語のなりたち、ことばの働き、変化形・音便・連濁などの言語現象について興味を示し、理解をするようになったか。

(6) 方言やなまり音が正され、正しいきれいな発音をするようになった例があるか。

(7) ローマ字文の学習指導を始めてから、漢字の習得が悪くなった例があるか。

(8) ローマ字文の学習指導を始めてから、漢字の1点1画に注意して正しい字を書こうとするようになった例があるか。

(9) ローマ字文の学習指導を始めてから、かなづかいの誤りが目だって来たような例があるか。

(10) その他特記すべき事項。

〔IV〕 家庭におけるローマ字文の学習指導に対する関心。

(1) 賛成したり、喜んだりしている例があるか。(その理由も。)

(2) 反対したり、不要だという声があるか。(その理由。)

(3) まったく無関心、その他特記すべき事項。

(V) その他、気のついた事項。(ちょっとした事がらでも、けっこうですから、お気づきになったことをお書きください。)